

# 「ハラスメンター・パンデミック」

—初稿—

2025/12/22

脚本 太郎

へ人物表へ

木原 春人 (40)  
東堂 修 (36)  
淀川 千鶴 (20)

ハラズメント殲滅戦線総隊長  
ハラズメント殲滅戦線総隊長補佐  
コンビニ店員

1. ハラスメンター・デスマッチ会場（夜）

プロレスのリングのような場所。四方には観客席。リングの上、ハラスメンターA が倒れている。向かい合うハラスメンターB、身体をふらつかせ、力なく倒れる。

歓声。

2. ハラスメント殲滅戦線本部・会議室

机と椅子が円形に並べられている。座っているのは20人ほどのハラスメント殲滅戦線幹部たち。プロジェクターからスクリーンに映像が映し出されている。映っているのは柱1と同じ光景。

ハラスメンター殲滅戦線総隊長補佐・東堂修（36）がリモコンのボタンを押すと、映像がハラスメンターB が倒れたシーンで一時停止される。

東堂 「えー、以上のように」

東堂、机にリモコンを置いて、威厳のある目を前に向ける。

東堂 「前回のハラスメンター・デスマッチを最後に、地上に生息するハラスメンターこと糞どもの絶滅が完了しました」

ざわめき。

東堂、誇らしげな表情。

東堂 「我々の掲げる第一目標は見事完遂したのです」

ハラスメント殲滅戦線総隊長・木原春人（40）、苦々しげな表情で震えている。

木原、絞り出すように、

木原 「そんなはずはない」

東堂 「総隊長？」

木原、歯を食いしばって、

木原 「探せ。まだいるはずだ」

東堂、困惑気味に、

東堂 「ですが、調査部隊の報告では……」

机に拳を叩き付ける。

全員、ビクリとする。

木原 「奴らがそんな簡単にいなくなるはずがないだろう！ もっとよく探せエっ！」

### 3. オフィス街・通り（昼）

高層のオフィスビルが並ぶ広い通り。  
木原、周囲に血走った眼を向けて歩いている。  
やがてビルの一階にあるコンビニに向かっていく。  
入店。

### 4. コンビニ・店内（昼）

客数はまばら。  
木原、飲み物のコーナーに向かう。  
ジュースを手にとると、  
店員の声「ちよっと、また間違ってたよ」

木原、声のした方に顔を向ける。  
女性店員の淀川千鶴（20）が別の店員を軽く注意している。

木原、嬉しそうな満面の笑み。

### 5. オフィス街・通り（夜）

退勤した千鶴が外に出てくる。  
物陰から、木原他、ハラスメント殲滅戦線の隊員たちが出てくる。

中央の木原以外、デフォルメされた拳に①マークが描かれたマスクをしている。さらに、全員鉄パイプなどの凶器を持っている。

千鶴、ギョツとして立ち止まる。

木原、凶悪に笑って千鶴に指をさし、

木原 「お前は糞だ」

千鶴 「え？」

木原、周囲の隊員たちに向けて、

木原 「この女がパワー・ハラスメンターの生き残りだ。捕らえろ」

隊員たちが動き出す。

千鶴の悲鳴。

6.

ハラスメント殲滅戦線本部・尋問室（夜）

四方にコンクリート打ちっばなしの壁。

真ん中に、椅子に拘束された千鶴。力なく項垂れており、顔は殴られた後のように腫れている。

周囲には木原と、数人の隊員たち。

木原 「ようやく吐いたか、しぶとかったな」

木原、興奮した表情でナイフを取り出し、

木原 「とどめは私がさす。文句はないな？」

ざわつくも、誰も何も言えない様子。

扉が勢いよく開かれ、東堂が飛び込んでくる。

木原 「おや総隊長補佐、遅かったじゃないか」

東堂、木原を睨みつける。

東堂 「白々しい。敢えて私の耳に何も入らぬよう事を進めたの  
でしょう？」

木原 「言いがかりはよせ、被害妄想はハラスメンターの始まり  
だぞ」

東堂、納得いかない様子だが、一旦言葉を飲み込み、  
千鶴を指し示して、

東堂 「それより、彼女は本当にハラスメンターのですか？」

木原 「私を疑うのか？ きちんと本人の自白を引き出したぞ」

木原、千鶴を顎でしゃくる。

東堂 「こんな拷問まがいの尋問で引き出した自白が有効だとで  
も？」

木原 「さあ？ 我々は別に法律家ではないのでな」

木原、ナイフを持った手を振り上げる。

木原 「もういいか？」

東堂 「待て」

東堂が木原の手を掴む。

木原、東堂を鬱陶しそうに睨む。

木原 「何だ」

東堂 「仮に彼女がハラスメンターだとしても、ハラスメンター  
・デスマッチに参加させずに殺すなど許されない」

東堂の手の力が強くなる。

東堂 「あれは我々の神聖な儀式のはず——」

木原が東堂の手を振り払う。

そして少し考えこみ、何かを思い付いた顔。  
嫌らしく笑い、東堂を指差す。

東堂、いぶかしげに、

東堂 「何です？」

木原 「ロジハラだ」

ざわめき。

東堂 「な……」

東堂、驚いて後退る。

東堂 「馬鹿な」

木原、東堂を指差したまま嬉しそうに、

木原 「ツアアウト」

東堂 「は？」

木原 「今馬鹿と言ったな」

東堂 「いや」

木原 「モラハラだ」

ざわめきが強くなる。

隊員たちは皆顔を見合わせ、どうすれば良いか分からず困っている様子。

東堂、顔をひきつらせて、

東堂 「こ、こ、こんな言い分が通るわけ……」

木原、さらに笑みを深める。

木原 「スリーアウト」

東堂 「え？」

木原 「今オドオドしたな？」

東堂 「は？」

木原 「オドハラだ」

東堂、ギョツとして、

東堂 「さすがに聞いたことないぞ」

そこで東堂、ふと思い付いたような顔。  
木原を指差し、

東堂 「パワハラだ！」

木原、余裕の笑み。

胸の前で両腕を交差させて×を作り、

木原 「はいバリア」

東堂 「小学生かアンタ」

× × ×

東堂、うずくまり、隊員たちからリンチを浮けている。

木原、楽しげに哄笑している。

木原 「喜べ、総隊長補佐。これで君の大好きなハラスメンター

・デスマッチができるぞ」

再び哄笑。

部下たちを仰ぎ、

木原 「さあ、これで分かったろう？ 糞どもはどこにでも紛れている」

両手を振り上げ、

木原 「どんどん捕まえろ。毎月100人捕獲がノルマだ。達成できなかった者はハラスメンター同然として扱う」

終